1/8 毛祝

崖っぷち。頑張ってるけど

緊急事態宣言

政府は7日、東京都と神奈川、埼玉、千葉の3県に緊急事態宣言を出しました。営業時間の短縮（午後8時まで）を求められる東京都渋谷区の飲食店の反応は―。

（小酒井自由、畑野孝明）

東京 渋谷の飲食店

定食メニューがずらりと並び、落ち着いた雰囲気の和・洋食の店「かつしげ」。店主の戸叶重男さん(73)と妻の繁子さん(66)は「夜の営業ができないと厳しい。夜10時までの時短で何とか頑張ってようやく少人数の客が戻ってきたところなのに、8時に閉店じゃ客が来ない」と口をそろえます。

書き入れ時に

忘年会や新年会がある一年で最も書き入れ時である12月、1月に大打撃を受けました。「お客さんの予約が全然入らない。せっかくの予約の問い合わせも時短でだめになることも…」と繁子さんは肩を落とします。昨年の売り上げは一昨年の半分以下に落ち込みました。渋谷民主商工会の援助も受け、国の持続化給付金や家賃補助、都の給付金を活用して何とか頑張ってきました。

重男さんは「自粛要請するならそれに見合った補償が必要。政府は『Go To』で感染を広げているだけじゃないか。補償をちゃんとしてくれたらみんな協力できる」と話しました。

コロナ禍のなかでも客の励ましに応えたいと繁子さん。「『応援しています』『ここしかない』と言われると店を続ける張り合いになります。早く収束してほしいですね」

飲食店が軒を連ねる通りにある居酒屋では―。

30代の店主は「昨年の緊急事態宣言で（客足がぱったり途絶え）営業を諦めかけた」と言います。それでも夜がメインだった営業を昼のランチに切り替えて踏ん張ってきました。自腹で新たにシャッターも取り付け感染対策もしています。

補償あるなら、みんな協力できる

「かつしげ」の戸叶夫妻

全然足りない

「また去年みたいに追い込まれるんじゃないか。持続化給付金や都の協力金があっても、家賃に給料、開業で負った借金もあるなかで全然足りないです。まるで飲食店が悪者みたい。このままでは、飲食店はどんどんつぶれるよ」

他の居酒屋でも「ようやく売り上げがよくなってきたところだったのに。厳しいことになる…」「給付金がなかったら要請に協力していられないと思います」などの声が上がりました。

影響深刻。給付金継続と拡充ぜひ

渋谷民商会長
田中正敏さん

渋谷区はホームタウンというよりショッピングや娯楽などの目的で人が流れてくる街です。家賃も高いし、緊急事態宣言によって街に人が来なくなれば営業利益が出せずダメージは深刻になります。コロナ禍で資金がない小規模店舗は、廃業費用もつくれなくて撤退もできず、崖っぷちで頑張っているのが現状です。

相談してきた業者に制度活用を援助するなど寄り添うなかで会員が増えています。一方で、今日明日の生活がままにならないのに、制度の谷間にいるので支援に結びつかない人からの相談も多くあります。谷間から出られるよう支援をしています。

持続化給付金の第2弾などの支援の継続・拡充は絶対に必要。それでも全然足りない業者も多くあります。売り上げが減った分の補償や消費税の免除など思い切った支援策が必要になります。